

## 第1回『スポーツモールAKITA』を核とした街づくり構想協議会議事録

日時：平成30年3月6日（火） 午前9時30分～

場所：秋田拠点センター アルヴェ 4階 洋室C

出席者：桂田委員、岩瀬委員、水野委員、小畑委員、新出委員代理目黒様、小林委員、  
今村委員、筒井委員、渡邊委員、飯坂委員、齋藤委員

オブザーバー：日本経済研究所 秋田様

事務局：ブラウブリッツ秋田 外山、日本総合研究所 東様、日本IBM 岡田様、金子様

### ○会議次第

- 1 開会
- 2 議事

#### (1) 国内外のスタジアム整備の事例について

##### ①国内事例

株式会社日本総合研究所 リサーチコンサルティング部門  
シニアマネージャー 東一洋 様より

##### ②海外事例

日本アイ・ビー・エム株式会社 GBS事業本部 コグニティブ推進室  
IBM SPORTS シニアマネージングコンサルタント 岡田明  
金子真也 様より

#### (2) 構想策定フレームワークの共有

##### ①事業のビジョン等について

##### ②事業概要について

事務局外山より

##### ③ディスカッション

#### (齊藤委員)

- ・総論は賛成であるが、実現性の高い内容を検討しなければならない。
- ・行政側の役割として決まってしまうように見えるが、官民連携のあり方を検討することになっている。
- ・経済界も、地元だけでなく、外部からの関与も想定されるのではないか。
- ・ステークホルダーについては、今後幅広く広がっていくイメージであると理解。P 8 と P 9 の整合性はとっておいたほうがよい。

#### (事務局)

- ・幅広い意見を踏まえて、さらに事例を踏まえて、秋田らしい事業にしていきたい。現時点で、可能性を狭めるものではないため、表現を見直したい。

#### (岩瀬委員)

・健康医療の分野は書かれているが、教育分野における大学等との関わりはどうか。現在、中央大学と連携は図っている。もっとスタジアムを活用する可能性があると考える。

(小林委員)

・観るスポーツが、高齢者の健康寿命にポジティブインパクトがあるということが実証されると、この秋田のスタジアムでもシンボリックに情報発信できる可能性がある。  
・スポーツ愛好者だけがフォーカスされるのではなく、周辺の人がインボルブメントされていくことが重要。

(水野委員)

・P 8のステークホルダーは、スタジアム整備運営のステークホルダーか、スポーツモールA K I T Aのステークホルダーか。対象としている事業は？

(事務局)

・事業コンセプトは、スポーツモールと、スタジアムの整備、2段階で示しており、ステークホルダーは、スタジアムの整備運営の部分を想定している。  
・スポーツモールのリーディング事業としてのスタジアム整備運営の事業として位置づけている。

(桂田委員)

・経済界として、どのように考えているか、意見が欲しい。

(筒井委員)

・県外から来るアウェイサポーターに対して、どのようなもてなしをするか。ホスピタリティを発揮させるかが重要。経済というより、県全体で、県民も含めて浸透させていくことが重要。

(渡邊委員)

・経済同友会では、マルチで活用できるスタジアムがよいという提言をしている。  
・サッカーだけでなく、今まで秋田で出来なかった催しもできることが重要。  
・スポーツモールA K I T Aとあるが、具体的にどのようなモールであるかを県民にわかりやすく伝えていくことが必要ではないか。  
・北欧の事例で、雪を意識しているとあったが、屋根がなかったので、ちょっと聞いてみたかった。

(桂田委員)

・P 9で機能の話をしたい。

(飯坂委員)

・秋田のまちづくりを踏まえて、事業候補地は絞り込むべきだと考えている。

(齊藤委員)

・提言の内容として書くのであれば、いろいろな方向性を示していければよい。  
・中心市街地と言ってしまうと、線引きがされてしまうので、市街地としてもらったほうがよい。

- ・事業の背景やコンセプト、必要機能が見えてきたときに、適した候補地が絞りこまれるとよい。

(岩瀬委員)

- ・あり方検討委員会では、市街地という意見を結論とした。具体的には、八橋だろうという意見が出ていたところ。
- ・そのため、この委員会では、出来るだけ具体的な候補地を示していけるとよいのではないか。
- ・民間の人たちの意見を聞くと、八橋がスポーツゾーンとしての位置づけがよい。
- ・八橋の他に、候補地として、秋田プライウッドが川尻に所有している遊休地がある。まちづくりのため、秋田県のためになるのであれば、協議に応じるといわれている。用途変更は必要であるが、市街地と言える距離であり、バス路線も充実しているエリアであるため、可能性があるのではないか。

(桂田委員)

- ・まちづくりのコンセプト、機能から絞り込んでいくところと、具体的候補地をイメージしながら、計画を具体化する部分、双方のアプローチがある。
- ・どのように記述していくかは今後要協議である。

### (3) 『スポーツモールAKITA』構想内容協議

- ①スタジアムを起点とした地域振興の構想
- ②地方におけるスポーツ健康増進施設としての構想
- ③ディスカッション

(今村委員)

- ・POMS (Profile of Moods States) = 気分プロフィール調査
- ・スポーツ前後で、気分・精神状態を測定して評価。
- ・体操教室後(90分間)の数値を見ると、緊張、抑うつ、怒り、疲労、混乱は減少、活気は増加。
- ・スポーツ観戦が認知症予防に効果?があるかどうかを検証。体操教室後と同じような効果が認められた。
- ・米国では、EIM (Exercise Is Medicine) = 肥満でいることよりも不活動でいることの方が高リスクであるという考え方が普及。
- ・帰属性がある=幸福感が高まる、コミュニティ=他者とつながる、共有することも健康に寄与する。
- ・観るスポーツが、するスポーツにつながる可能性もある。

(目黒委員)

- ・スポーツの部分では、トップ3チームの試合の活用だけではなく、練習の拠点を兼ねているモールになるとよい。サブグラウンドやアリーナ、トレーニングルーム、リハビリ用施設などがあるとよい。

・ユースチームだったり、県内の他団体が利用できると、総じて秋田のスポーツ底上げにつながるるとともに、聖地になるのではないか。

(小畑委員)

・地元経済界といわれると、大きな企業が中心にいるイメージがあり、スポンサーやサポーター企業の中には、地域外の企業や中小企業がいるため、それらが包含される経済同友会や商工会議所などがよい。

・ビジネスチャンスだと考えている地元企業も出てきている。これから、増えていくのではないか。

・事業候補地は、ファン心理からするとどこでも行くが、観光資源としてする場合は、駅から歩けるくらいの距離がいい。アウェイサポーターなども、歩く人がいると、そこがビジネスチャンスとなり、観光振興につながる。

(水野委員)

・事業候補地については、八橋、川尻（プライウッド）の案があがったが、具体的な配置や納まりが見えてこない、判断しづらい。

・個人的には八橋がいいと思うが、想定される課題、対応方針などを提案できるとよいのではないか。

・付加する機能については、先進的取組みが取り込まれるとよい。健康づくりなどは、既存の施設でも行われている。

(岩瀬委員)

・今回の構想では、可能性がある事業候補地を列記して、課題などを整理しておくべきではないか。その上で、今後の検討の中で、本質的なところを前提として、絞り込んでいくべきである。

・ビジネス上の意見もあったが、地域経済にとっては非常に重要である。

(小林委員)

・秋田市のまちづくりに関連した行政施策の評価を確認すると、どのようなところが課題で、今後何をすべきか。

(斉藤委員)

・総合計画の施策事業に対して、P D C Aの評価を行っている。指標の進捗管理としてはしている。

(飯坂委員)

・クラブ側としては、ライセンスを取る条件として、人工芝は難しい、ということでよい。

(岩瀬委員)

・神戸がハイブリッド芝にしているが、人工芝は8%。J F Aは、認めていく方向になっていると感じているが、Jリーグは天然芝にこだわっているところがある。

・豪雪地帯として要望していくことは出来ると思う。一つのモデルをつくるきっかけになる可能性がある。

(飯坂委員)

・スケジュールは、事業候補地がすぐに建設できる場合はいいが、農地転用などが必要になる場合は、変わってくる。

(齊藤委員)

・次回で結論を求めるのではなく、次につなげることができればいいのではないか。時間的に検討を詰めていくのは難しい。

(4) 第3回 (最終回) 協議会内容について

3 閉会